

矢作川流域圏懇談会通信

R6 川部会編 vol.3



発行日：令和6年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第16回川部会まとめの会を開催しました！

第16回川部会まとめの会では、第14期（令和5年4月～令和6年11月）の活動をふりかえるとともに、来期（令和6年12月～令和7年11月）の活動計画・目標について話し合いました。

日時：令和6年10月31日（木）13:30～16:00
会議場所：豊田市 崇化館交流館（大会議室）
参加者：16名（内オンライン参加1名） ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 今期の実績・ふりかえり



川部会が設定した3つのテーマに関する今期の活動状況について報告しました。

- ◆ テーマ別の活動目標に対する活動計画について（テーマ①河道、②流域、③交流）
テーマ別の活動目標への活動計画を策定していくため、第63回川部会WGにて出た意見を基に、今後の活動計画や方針、課題等について意見交換しました。
- ◆ 昨年度の矢作川関係卒業研究の紹介について（テーマ①河道に関する課題）
愛知工業大学土木工学科の卒業研究から、矢作川の生物に関する研究内容を5つ紹介いただき、意見交換しました。
- ◆ 総合土砂管理について（テーマ①河道に関する課題）
矢作川水系総合土砂管理の土砂供給実験箇所や下流河川の現地視察を行いました。現地視察後、会議室にて実験の概要や実験において着目すべき環境について共有し、意見交換しました。
- ◆ 水力発電に関する情報共有と意見交換（テーマ①河道に関する課題）
日本を取り巻くエネルギー資源の現状、水力発電の主な特徴、矢作川水系の水力発電等について中部電力株式会社から情報共有していただき、意見交換しました。
- ◆ 流域治水について（テーマ②流域に関する課題）
矢作川流域治水プロジェクト・協議会について、岡崎市および豊田市の流域治水の取り組みを情報共有し、意見交換しました。

2. 来期に向けた活動計画・目標



設定した3つのテーマに関する来期の活動計画・目標について話し合い、以下の目標としました。

- ◆ テーマ①河道に関する課題（本川・支川）
 - ・上流から海までを繋ぐ役割として、上下流共通の課題である土砂問題や生き物の棲みやすい川づくりについて、情報共有および意見交換を行う。
- ◆ テーマ②流域圏に関する課題
 - ・川まちづくりに関与する行政や関係機関から矢作川流域内で取り組んでいるプロジェクトについて、情報共有していただく。
 - ・河川の話題に限らず、流域圏の話題も議論する体制を整理する。
 - ・議論するうえで重要となる水利用に関するデータを公表できるように働きかける。
 - ・流域圏の課題を防災面・社会面から整理し、行政や市民団体などが参画できる場を創出する。
 - ・矢作川流域圏の特色（現状の課題や資源・資産）を整理する。
- ◆ テーマ③交流・共有に関する課題
 - ・川を通して人と人の繋がりを広げるため、本部会がプラットフォームとして機能することを目指し、他部会・流域内外の外部団体との連携を深める。
 - ・ダム・水力発電等のエクスカッションから流域圏の課題を知っていただく。
 - ・整理した矢作川流域圏の特色を市民に知っていただく機会を設ける。

3. 今後の予定



事務局・関係者より以下の連絡・案内がありました。

- ① 今後のスケジュール：全体会議（11/26）、第66回川部会WG（1/31）
- ② 流域連携イベント：第61回多摩川流域セミナー（11/30）、第5回公開講座（12/17）

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

● 今期の実績・ふりかえり

- ・農業団体や企業による水の利用は、どのテーマに属するか。(光岡)
 - ▶ 利水・治水に関わらず、河道と流域との相互関係が重要になってくるため、テーマ②流域の問題に入れてトピック化してよいと考える。(鷲見)
- ・海に流入する栄養塩が減少し、漁獲量が減少していることが市民の方々に知られていないため、川がどのような役割を果たしているのか市民の方々に周知する必要がある。(高橋)
- ・現状、線として捉えた河川の話題が多いため、流域としての議論をしていくために体制を考える必要がある。(内田)
 - ▶ ここ十年で大きく変わったことは流域治水への転換であるため、流域をつなぐ役割として川部会が今まで以上に重要となってくる。また、流域治水から流域総合水管理への転換が公表されたため、水の総合管理という視点で議論していくべきである。(近藤)
 - ▶ 流域総合水管理の理念は素晴らしいと思うが、海を含めた物質循環については触れられてない。(鷲見)
 - ▶ 矢作川流域圏懇談会は、設立当初から海を含めた流域全体の議論をしている先進事例であるため、継続していきたいと考える。(西原)
- ・議論するうえで重要となる水利用に関するデータが公表されていない現状がある。(鷲見)
- ・懇談会参加者は全体像が見えているが、一般の方への発信方法としては公開講座が有用だと思う。交流に関する課題に市民への情報共有に関する目標を加えても良いのではないかと。(内田)
 - ▶ テーマ③については、内容が「交流」に関する記載のみであるため、「共有」に関する記載も必要と考える。(光岡)
 - ▶ 第64回川部会WGで水力発電に関する情報共有を行ったが、矢作川における水力発電の役割を一般の方にも情報共有することが大事ではないかと。(内田)
 - ▶ 実際に年1回、奥矢作第一発電所で一般の方向けの見学案内や発電所の仕組みについての紹介をしている。(北井)
 - ▶ 矢作川流域圏懇談会としても川部会や市民部会も関わっていき、市民の方への発信につなげていきたい。(鈴木)
- ・矢作川は、標高差が大きく位置ポテンシャルを抱えているため、エネルギーとしての資源について発信することもできるのではないかと。(鷲見)
 - ▶ 日本の地形にあった自然エネルギーと言えば水力発電だと思うため、矢作川流域における資産価値をアピールすることは重要であると思う。山部会の出発点として「矢作川の恵みで生きる」とあるが、川部会でも共有していくことだと思う。(近藤)
- ・ダム建設後の20、30年の中で、生物多様性が失われている現状についても考える必要がある。(鈴木)
- ・「矢作川の恵みで生きる」という言葉は良い面だけを言っているのではなく、資源も含め「矢作川の恵み」について考え直すきっかけになると考える。(近藤)

● 来期に向けた活動計画・目標

- ・市民への情報共有の点では、水力発電所の見学および紹介を公開講座ならびにエクスカージョンとしてもよいのではないかと。(内田)
 - ▶ 矢作川流域圏懇談会の最初の10年は学びと交流の時期だったが、これからは懇談会メンバーがどのように外部に発信できるかについて考えていく必要がある。(近藤)
- ・議論の中で挙げられた意見をまとめ全体会議で発表させていただく。今期の目標は、来期も継続していく方針で良いかと。(大嶋)
 - ▶ 今期の目標は継続で良いと考える。(内田)
- ・矢作川における生物多様性の観点や、海の生物にとって重要な栄養塩を矢作川が供給しているという観点でも、引き続き議論していただきたいと思う。(鯉江)
 - ▶ 川部会でもその議論は扱っているが、一般の方に広く理解されていない状況である。(内田)
 - ▶ 水産試験場でも情報提供しており、理解が得られるようになれば良いと思う。(鯉江)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

